

理事長挨拶【土田 哲也(埼玉医大皮膚科)】

今年度の日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会(5月27-28日)は、鹿児島で開催されます。金蔵会長はじめ主催校である鹿児島大学医学部皮膚科の皆様には大変ご苦労をおかけしますが、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

任意団体であった日本皮膚悪性腫瘍学会が社団法人となり1年(形式上は2年)が経過いたしました。これを契機に、この間、様々な改革(定款作成、会則変更、学会誌であるSkin Cancerの完全オンライン化、ホームページのリニューアル、会員名簿の整理、年会費自動引き落としなど)がなされましたが、役員の方をはじめ会員皆様のご協力で何とか進めることができました。また、昨年度から会員の皆様との連絡役を担う新たな紙媒体として、このレターが始まっています。

学会活動としては、学会賞である石原・池田賞も認知されるようになり、毎年皮膚悪性腫瘍に関する優れた論文を表彰できるようになりました。また、岩月先生を委員長とする皮膚がん予後統計委員会では、皮膚悪性腫瘍に

関する調査を地道に続け、貴重なデータを蓄積してきております。さらに、長年の懸案であった皮膚付属器悪性腫瘍に関する調査・解析が渡辺先生・安齋先生を中心にワーキンググループで開始されています。

大きな課題としては、皮膚悪性腫瘍診療ガイドラインの作成・改訂があります。このガイドラインは、日本がん治療学会、日本皮膚科学会、日本皮膚悪性腫瘍学会が共同して作成・改訂してきたガイドラインで、日本皮膚悪性腫瘍学会がその作業の中心を担ってまいりました。2014年度に改訂がなされ、2015年にはメラノーマ等4癌腫と皮膚リンパ腫のガイドラインが合本化され、「皮膚悪性腫瘍診療ガイドライン第2版」(金原出版)として出版されています。しかし、昨今の皮膚悪性腫瘍診療をめぐる環境の急激な変化には改訂がついていけなくなっています。現在、学会内におけるガイドライン委員会のありかた、変化が急激な分野におけるガイドライン補遺や手引き作成について検討を行っておりますが、今度の学会

の方針を明確にする予定です。また、改訂スピードが速く世界中で利用されているNCCN(National Comprehensive Cancer Network)診療ガイドラインについて、皮膚悪性腫瘍領域の日本語版の監訳も本学会が中心になって行うことを検討中です。

以上、課題も多く抱えていますが、益々高まってきている皮膚悪性腫瘍における診療、研究に対する社会の要請に応えるためにも、学会をあげて課題に取り組んでまいりたいと思います。是非皆様のご協力をお願い申し上げます。

日本皮膚悪性腫瘍学会
理事長 土田 哲也



【臓器がん登録にどう取り組むか】

平成28(2016)年1月1日から「がん登録」が法制化され実施されています。「全国がん登録」と「院内がん登録」に加えて、学会・領域単位で実施中の「臓器がん登録」についても体制整備が始まっています。そのモデルとして、先行実施されている外科系のNCD(National Clinical Database)へ、他領域のがん登録が参加する意思を繰り返し調査されています。本学会では、メラノーマと皮膚リンパ腫のがん登録を実施していますが、ともに希少がんであり、少ないマンパワーと経費ですぐにNCDへ参加することもできません。当面は、現行の登録を継続し、そのデータを提供するほかにと思います。

【ガイドライン普及・評価からアウトカム評価へ】
ガイドライン作成と普及が進み、次なる目標は、ガイドラインに準じた診療によって、アウトカムが改善したのか、いかにQuality Index(QI)が向

予後統計調査委員会より【岩月 啓氏(岡山大学皮膚科)】

上したのか検証する課題に移りました。そのためにはコホート調査が必要であり、前述のがん登録ともリンクさせた体制作りを求められています。コホート調査を継続的に実施するには、データ入力者にインセンティブを付与することが必要で、外科subspecialty学会のように、皮膚悪性腫瘍指導専門医の認定資格ともリンクさせた取り組みが必要かもしれません。

【HTLV-1研究班への皮膚ATLL疫学データ提供】
2007年から始まった皮膚リンパ腫登録では、皮膚病変を有するATLL症例も調査対象です。HTLV-1研究班(塚崎班)からの要請により、第12次ATLL全国実態調査に協力することになりました。現在、倫理委員会等の手続きを進めています。皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

【臨床統計と生体試料は新医療開発の根幹】
臨床統計および連結可能な生体試料の保管は、新医療開発に不可欠ですが、地味な作業の積み上げで、外部資金の獲得に繋がりません。海外の研究グループに伍するには、斬新な研究プロジェクトやシーズをオールジャパン体制でAMEDなどに申請できるような協力体制が必要と思われます。

予後統計調査委員長
岩月 啓氏



① その研究の主たる研究者であり、論文の第一著者たること。
② 応募時点ですでに本学会の正会員であること。
③ 年会費未納者でないこと。
④ 公募締切時点で、原則として満45歳以下とし、未だ教授職でないこと。
日本皮膚悪性腫瘍学会への直前入会による応募の場合は考慮して選考します。受賞者には、学術大会において表彰状とともに副賞を授与し、受賞講演の機会が与えられます。
詳しい応募書類と応募要領は、日本皮膚悪性腫瘍学会のホームページをご覧ください。

学術委員会委員長
戸倉新樹



学術委員会より

【戸倉 新樹
(浜松医科大学皮膚科)】

日本皮膚悪性腫瘍学会では、本学会の研究レベル向上を促すために、皮膚悪性腫瘍学分野で顕著な研究業績を挙げた正会員に学会賞を付与しております。本学会賞は皮膚悪性腫瘍に関する基礎的及び臨床的研究の発展並びに診療レベルの向上に資する研究論文を賞し、併せて受賞者の研究における更なる活躍と発展を促進することを目的とします。

過去3年間の受賞者は、第1回藤井一恭先生(岡山大学、現鹿児島大学皮膚科)、第2回大菅孝平先生(国立がん研究センター皮膚腫瘍科)、第3回青井淳先生(熊本大学皮膚科・形成再建科)が受賞の栄誉に浴されました。

この賞は会則第4条第3項に基づいており、学会賞細則に規定を設けております。以下の基準に従い学術委員会にて選定、推薦し、理事会が授与論文・受賞者を決定します。

1. 皮膚悪性腫瘍に関する基礎的及び臨床的研究の発展並びに診療レベルの向上に資する研究論文を対象とする。1年間に1編を原則とする。

2. 前年1月1日〜12月31日の1年間に公表された論文で、公募を原則とする。

3. 当該研究が本邦で行われたものであること。
4. 応募者は、次の要件を満たす者とする。

Skin Cancer誌の現況【渡辺 晋一(帝京大学皮膚科)】

本学会の機関誌であるSkinCancerは2014年度の理事会において完全に電子化する事が承認されました。SkinCancerは、それまでは紙媒体と科学技術振興機構が運営する総合電子ジャーナルプラットフォームであるJ-STAGEを併用する形で発行されてきましたが、2015年度発行の第30巻1号から紙媒体は廃止され、電子ジャーナルとしてJ-STAGEにおいて会員限定で公開されております。

電子化の主な理由として制作費の削減が掲げられ、電子化に伴い本誌制作費のうち印刷費が大幅に削減されました。2015年度の誌刊行費は550万円の予算に対し350万円程度になる見込みで、これは2014年度までの誌刊行費予算700万円から大きく削減された事になります。その他にも、紙媒体を廃止したことで本誌発送に伴う費用がなくなり、あわせて大幅な余剰金が発生しました。

紙媒体発行時に掲載していた企業広告につきましては年間150万円程度の収入となっておりますが、学会ホームページの整備によりホームページ上に広告を掲載することで広告収入を補うことができました。

2015年度以降の電子化運用状況ですが、掲載論文数につきましては、2014年度までの年間掲載平均約60編に対して41編の掲載と減少傾向を示しました。しかしながら、会員数につきましては期初の1,434名から期末の1,440名と例年通りの推移となっております。

電子化によって生じた余剰金については、理事会・評議委員会で活用用途が決定される事になりますが、毎年開催される学術大会への補填、ガイドラインの整備等新たな懸案事項もございます。これらは本学会の運営に大きく寄与するものであり、有効に活用されることを確信しております。

あらためて本誌の電子化につきましては会員の皆様のご理解をお願いする所存でございます。電子化されたSkinCancer誌は公益社団法人日本皮膚科学会の専門医実績単位取得のための論文発表先として認められております。本学会会員の皆様におかれましては、本誌に掲載された論文データの活用ならびに今後も最新のデータが掲載蓄積されるよう、積極的な投稿をお願い申し上げます。

雑誌委員会委員長
渡辺 晋一



第33回学術大会の御案内【眞鍋 求(秋田大学皮膚科)】

第33回日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会を、初めて「美の国あきた」で開催する機会をいただき大変光栄に存じます。会期は2017年6月30日(金)～7月1日(土)の二日間で、「秋田キャッスルホテル」で開催致します。

最近、皮膚悪性腫瘍の治療は、悪性黒色腫における免疫チェックポイント阻害剤に代表されるように、大きなパラダイムシフトを起こしつつあります。このような潮流の中で、診断・治療・研究の最先端の情報を集約して会員の皆様に提供すべく、趣向を凝らしたプログラムを準備中です。そのうちの3つを以下にご紹介します。

まず、第一線の講師をお招きし、新規に導入された薬剤を中心とした、斬新なセミナーを企画しております。現時点では講演内容は準備段階ですが、最新の知見が披露されることが予想されます。

また、皮膚悪性腫瘍では正確な病理診断が治療法の選択、予後の判定に不可欠です。しかし、悪性黒色腫のinsitu病変か否かの判断や、付属器腫瘍、間葉系腫瘍などでは診断に難渋することも少なくありません。本大会では「皮膚病理道場(仮)」を開講し、皆様のこれまでの皮膚病理の知識をブラッシュアップしていただく機会を設けます。

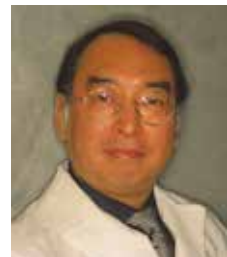
さらに、皮膚悪性腫瘍の外科治療では、腫瘍そのものの切除より、その後の再建が問題になることがあります。皮膚科医のみならず形成外科医にもご参加頂き、「皮膚悪性腫瘍再建ロシアム(仮)」として、術後再建の問題、方法について熱く議論していただく場をご提供しようと考えています。

最後に、大会の中心が一般演題の充実であることは論を待ちません。日常の診療の中で先生方が経験されたこと、考えたことの積極的な

情報交換の場にしたいと思っております。多くの先生方に演題登録していただけますよう、心よりお願い申し上げます。

大会が開かれる初夏の秋田は、緑が濃さを増し、素晴らしい季節です。全国から多くの皆様のお参加をお待ちしております。

第33回日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会
会長 眞鍋 求



◆学術大会のご案内◆

2016 KAGOSHIMA

第33回日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会
会期:平成28年5月27日(金),28日(土)
会場:かごしま県民交流センター
会長:金蔵 拓郎
(鹿児島大学皮膚科学講座)

昨年(文責) 日本皮膚悪性腫瘍学会事務局 緒方大

尚、エモンテツに関するご意見ご要望並びに、インフォメーションのご依頼がございましたら、学会事務局までご連絡頂ますよう宜しくお願い致します。

退会手続き等各種手続きの書式もエモよりダウンロード可能です。

昨年(文責)の学術大会後、学会エモをリニューアル致しました。新規承認薬剤の情報更新や、他学会関連情報の発信などをトップページのお知らせ欄に随時掲載しております。完全online化されたSkin Cancer誌へもエモよりアクセス可能ですので、活用ください。ログインの際には毎年更新されますパスワードのご確認をよろしくお願致します。また住所変更手続き、入退会手続き等各種手続きの書式もエモよりダウンロード可能です。

学会ホームページ(エモ)リニューアルについて

学会会員の皆様のご協力により、現在会員メーリングリストの作成を行っております。メーリングリストの導入は学会誌の紙媒体廃止に付随した、郵送費用のコストカットによる経費削減と、より活発に学会からの情報発信を行うことを目的としております。現在踏力がお済みでない会員の皆様は、会員管理を担当しております(株)臨床医薬研究会までご連絡頂ますようご協力宜しくお願い致します。

会員メーリングリスト導入による情報配信について

事務局より